



月刊 労働千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

96.11.5 No. 4493

11/10 第三次安保・沖繩闘争!

秋冬の4大闘争

1. 恒常的ストライキ体制を強化し、12月ダイ改合理化—組織破壊攻撃を粉碎しよう!
2. 「国労解体」を叫ぶファシスト組合=JR総連を解体し、組織拡大を実現しよう!
3. 清算事業団闘争の政治決着=幕引き攻撃を許さず、解雇撤回闘争の勝利の展望をひらこう!
4. 今年1年間の成果を全て11・10労働者集会に集約し、5千名の結集を実現しよう!

すでに日米共同作戦行動が!

今年四月、日米政府は「安保再定義」を強行した。一九五二年の安保条約発効以来の抜本的な大改悪である。日米共同宣言によって、安保条約はその性格を大きく変容させた。日米の支配階級は、最後に残された「生命線」アジアをおさえるためには、「湾岸戦争」型の軍事力行使も辞さないという軍事外交政策、朝鮮—アジアへの侵略戦争政策にふみ切った。四月以降、アジアをめぐる情勢は一変した。われわれは、戦後史を画する事態として、新安保体制を真正面から見すえなければならぬ。

アメリカ国防総省は「朝鮮半島での戦争発生の危険が日米安保にとつて最大の課題」と主張し、「期限を切らずに東アジアに十万人の米軍駐留を続ける」との戦略構想を発表した。日米

共同宣言では、「朝鮮半島の安定が日米両国にとって死活的に重要」とうたわれた。

日米安保の範囲は「中東を含むアジア太平洋地域」全域に拡大され、すでに「日米防衛協力の指針」(ガイドライン)の改訂作業が進められ、九月には経過報告がだされている。その内容は恐るべきものだ。千項目に及ぶ日米共同作戦計画が検討され、事実上すでに合意に達している。「後方地域支援」と称して自衛隊が韓国はもとより、アジア—太平洋—中東まで出撃するといふのだ。防衛庁幹部は、「今の指針は、(戦争を)やらない」ことを前提に書いているが、新指針は「やる」ことを前提に書く」と公言している。

こうした事態のなかで、十月二八日から米韓合同軍事演習が始まり、この四日からは日本海での日米統合軍事演習が強行されている。言うまでもなく朝鮮侵略戦争を想定した実戦訓練で

あり、明白な戦争挑発だ。期間が重なる四日から十日までは、米軍四万五千、自衛隊一万、韓国軍数万が参加する巨大な三軍の合同演習になる。公式発表では「来秋に向けて策定中」と言いつつ、新安保体制—新ガイドラインに基づく作戦行動がすでに開始されているのだ。

有事法制の強行

また、有事法制確立に向けた動きが本格的に台頭している。梶山前官房長官は、「朝鮮半島でドンパチがあつたら大量の難民が来て内紛状態になる。必要なのは有事立法だ」と公言した。政府は、二年前の「朝鮮危機」に際し、有事立法を一括国会上程する方針を固めていたことが新聞で暴露されている。有事法制はすでにできているということだ。新安保体制との闘いは、自衛隊法の改悪を始めた有事法制攻撃との闘いだ。有事法制には、原発や米軍基地、新幹線、諸官庁の防衛のための自衛隊出動や、医療・建設・運輸・公務員等への強制命令、必要な土地・家屋の強制収容などが含まれている。新安保体制と有事法制は表裏一体の攻撃だ。

新安保体制の実体は言うまでもなく沖繩の米軍基地である。歴史の大きな転換点として現在があることを見すえたとき、日米安保体制を揺るがし、県民投票までのぼりつめた沖繩の基地撤去の闘いの意義は初めて鮮明になる。まさに世界史的な意味

第三次安保・沖繩闘争を!

六〇年の安保改訂に対しては、日本の労働組合のほとんどが安保反対を掲げ、全国から首都に結集し、連日十重二十重に国会をとりまいて岸を退陣に追い込む歴史的な闘いを実現した。七〇年の安保・沖繩闘争でも、青年労働者・学生の激しい怒りが街頭をうめ尽くした。日米安保の抜本的な改悪が強行された今、連合体制の下で闘いは解体され、安保反対を掲げる労働組合はどこにもない。しかし悲観することはない。歴史を動かすような闘いが沖繩から始まっている。無数の労働者がこの闘いに心を揺り動かされ起ちあがるようにしている。時代への危機感が満ち始めている。

新安保体制との闘いは労働運動の最重要の課題だ。新安保体制との対決なくして労働運動の再生は空語だ。動労千葉は、沖繩の基地撤去の闘いに応え日米安保条約に絶対反対する。われわれは、持てる力のすべてを込めて、六〇年、七〇年に続く第三次安保・沖繩闘争を実現しなければならぬ。安保・沖繩—国鉄闘争を軸に労働運動の新しい潮流を創ろう!

新たな10万人合理化粉碎!! 労働運動の新たな潮流めざし全国へはばたこう!!

11/10 10時34分
11/10 12時49分
国鉄闘争の正念場